

沖縄大学 二〇一五年度 一般入試 (B日程)

国語

※答はすべて解答用紙に書きなさい。

【問題】 つぎの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本における自動車の普及は、自動車道路を始めとする道路ならびに関連施設の建設によって促進されてきた。公共事業としておこなわれる自動車道路の建設は一方では、土木建設産業に対して効果的な有効需要を生み出し、高い利潤を確保するという役割を果たす。他方では、政治的フエイボリテイイズム^{注1}を巧みに利用して、自民党を中心とする専制体制を維持するという役割を果たしてきた。

自動車道路の建設は自動車産業自体の発展に対して大きな効果をもつとともに、自動車関連産業における雇用形成を①ゆうはつし、ひいては日本経済全体の成長を促進するという効果をもっていた。このことはまた人々の精神構造に対して、無視しえない影響を与えて、自動車の果たす光の部分だけに注目して、そのネガティブな側面から(A)目をそらすという思考形態が一般的な風潮となっていた。もともと、人々の精神構造のなかには、自動車の普及が、社会の進歩を示すもつとも重要な尺度だという誤った考え方があって、日本における自動車道路の建設が歯止めのないかたちで進行していった背景には、この考え方がときとして支配的であったということと無縁ではないように思われる。

この点と関連して言及しなければならないのは、望ましい都市とはどのような形態をとらなければならぬのかということにかんする社会的コンセンサスの②欠如^{注2}という現象である。というよりは、(1)非人間的な近代的都市の理念が支配していたということに起因していたということに深く関わっているように思われる。

二十世紀を通じて支配的であった都市計画の理念は、ル・コルビュジエ^{注3}の「輝ける都市」に代表される考え方であった。イギリスのエベニーザ・ハワードの「田園都市」に始まった、この近代的都市理念は、アメリカに輸入されて、パトリック・ゲッデスによって拡張されたのであった。さらに、ル・コルビュジエの「輝ける都市」がアメリカを中心に現実の都市建設に主導的な役割を果たしていった。

ル・コルビュジエの「輝ける都市」は、建築素材として、コンクリート、③鉄鋼、ガラス、大理石を使って、伝統的な建築様式にとらわれない自由な建築群と、近代的なデザインと機能性とをあわせもつ自動車の群れとが巧みに調和した、いわば、芸術作品としての都市を計画したのであった。広々とした空間のなかに、高層建築の群が点々として存在し、それぞれ単一機能をもつ区画に④せいぜんとしてゾーニングが施され、すべての建物は、直線的で、幅の広い自動車道路に直接面している。ル・コルビュジエは、自らの設計した都市を、抽象派の芸術が、二十世紀の輝ける工業水準と調和的に結合されたものと考えたのであったが、「輝ける都市」には、人間が欠如している。人々が住み、生活を⑤いとなみ、人間的な活動をする場としての都市ではない。ル・

「輝ける都市」では、人は、ル・コルビュジェの意図するままに動くロボットとしての役割を果たすにすぎない。

しかし、ル・コルビュジェの「輝ける都市」は、二十世紀における世界の大都市の⑥変貌に決定的な影響を及ぼした。その影響は、アメリカ、西ヨーロッパ諸国だけでなく、アフリカ、インド、アジアの第三世界諸国の都市にまで及んでいった。そして、現在、これらの都市は、かつてない社会的混乱、文化的退嬰たいえいのなかで苦悩している。日本の都市もまた、その例外ではない。

ル・コルビュジェの「輝ける都市」の人間の貧困と文化的俗悪とを的確に指摘し、その⑦むじゅんを明らかにしたのが、ジェーン・ジェイコブスであった。ジェーン・ジェイコブスの思想は、多くの人々によって説かれていたので、ここで改めて説明する必要はないかもしれない。しかし、自動車の役割との関連で、簡単に、ジェイコブスの考え方を要約しておこう。

ジェイコブスの考え方もっとも⑧端的に表現されているのは、『アメリカ大都市の死と生』である。この書物は一九六一年に刊行されたが、当時の思想的状況のもとで、とくに若い建築家、都市設計家の心をとらえて、新しい都市理念の、いわば「聖書」としての存在になった。

ジェイコブスはこの書物のなかで、かつて魅力的であった、アメリカの多くの大都市が、一九三〇年代から五〇年代にかけて、ほとんどすべて「死んで」しまったと主張する。そして、人間的に魅力のある都市をつくるために、都市の「再生」のために、どのような基準を⑨どうにゆうしなければならぬのかということ、四つの条件にまとめ上げたのであった。この、ジェイコブスの四大条件は決して、(2)論理的、演繹的に導き出されたものではなく、ジェイコブスが、死に絶えてしまったアメリカの数多くの大都市と、そこにわずかに残っている人間的なコミュニティとを精力的に調査して回り、そこから帰納的、経験的に導き出されたものであるということに留意する必要があるように思われる。ジェイコブスの四大原則はまた、ル・コルビュジェの考え方を真正面から否定するものであって、それはまた土木建築産業の利潤追求型の計画都市、ないしは行政官僚の俗物的思想から生み出された都市計画とも明確に(B)一線を画するものである。

第一の原則は、街路の幅はできるだけせまく、曲がっていて、一ブロックの長さは短い方が望ましいというものである。人々の生活の必要から自然発生的に形成された街路が望ましいということが強調されている。ル・コルビュジェの「輝ける都市」が、真直ぐで、広くて長い街路を基本とした、非人間的な環境を求めていたのと、この点でも対照的である。

第二の原則は、再開発にさいして古い建物ができるだけ多く残るように配慮しなければならぬということである。新しい建物が多いと、高い償却費を払わなければならぬようになって、自由な発想が生まれにくいというのがジェイコブスの意図したところだったのである。

第三の原則は、都市の多様性にかんするものである。都市の各地区は必ず二つないしはそれ以上の機能をもっていなくてはならないという条件である。この原則は、ル・コルビュジェたちの近代的都市計画家が共通して主張するゾーニング計画の考え方を否定するものである。

第四の原則は、都市の各地区は、人口密度が十分高くなっているように計画されなければならないということである。

さきに述べたように、ジェイコブスの四大原則は、なんらかの理念にもとづいて理論的に演繹されたものではなく、アメリカの大都市の歴史と実態をくわしく調べ上げて、人間的な魅力と文

化的多様性とを兼ね備えた都市はどのような特徴をもっているかということに注目して導き出した考え方にもとづいている。ル・コルビュジエの近代的都市理念を否定して、新しい都市理念のあり方を⑩示唆したものである。

ジェイコブスの都市理念にもとづくとき、新しい都市の形態、とくに公共的交通機関の果たす役割にかんして、これまでの考え方に対して(3)百八十度の思想的転換を迫られることになる。

人間的な魅力を備えた都市はまずなによりも歩くということ⑪を⑫としてつくられなければならない。ジェイコブスの街路は、道幅が広くなく、曲がっていて、一つ一つのブロックが短い。しかも、十字路的な交差点では、T字路を基本とし、歩道橋の類は原則として避けるように設計されなければならない。また、歩道と車道とが物理的に分離されていることは当然であるが、歩行者が直接自動車通行によって影響を受けないように、街路樹などによって適当に⑬遮断されているなければならない。歩行者がかりうじて電柱のかけにかくれて、走りすぎる自動車をよけているというのは、日本の都市でよくみられる光景であるが、このことほど、日本の都市の貧しさを象徴するものはないように思われる。

公共的交通機関を基本的な交通手段として都市を設計するとき、一つの都市の大きさについて自らある限界が存在する。日本の大都市は、東京、大阪をはじめとして、異様な規模にまで拡大されてしまった。このような規模をもつ都市に対して、公共的交通機関を中心として交通体系を考えることは非常に困難となり、またそれにもなう希少資源の⑭浪費もまた大きくなってしま

う。
くるま社会の都市を越えて、人間的な都市をつくろうとするとき、ジェーン・ジェイコブスの四大原則がもつとも基本的な考え方を提供している。しかし、その理念を具現化することは必ずしも⑮よういではない。とくに日本の場合、一九五五年体制のもとにおける自民党、行政官僚、土木建設業の共同機構によって、自動車を中心とした、ル・コルビュジエ的な都市理念がこの上もない思想的遮断を形づくってきた。しかし、(4)日本の大都市の多くはすでに「くるま社会」の限界に到達しつつあって、いま、ジェイコブスの転換をおこなわなければ、都市における社会的不安定性、文化的俗悪は、不可逆的な被害を私たちに与えることになることは間違いないであろう。

(宇沢弘文『社会的共通資本』岩波書店、二〇〇〇年より抜粋。一部を改めた。)

注1 フェイボリテイズム
偏重主義、えこひいき。

注2 ル・コルビュジエ
スイス生まれ。フランスで活躍した建築家。

注3 ジェーン・ジェイコブス
アメリカのジャーナリストで、都市論の理論家。市民運動家。

問一 _____ 傍線部①～⑭の漢字にはふりがなをつけ、ひらがなは漢字になおさない。

問二 _____ 傍線部(A)「目をそらす」、(B)「一線を描す(る)」を使って、それぞれ短文を作りなさい。

問三 本文中にある(1)「非人間的な近代都市の理念」とはどういうことか、一〇〇字以内で具体的に説明しなさい。

問四 ここという(2)「論理的、演繹的に導き出されたもの」と対になる言葉を示しなさい。

問五 本文中にある(3)「百八十度の思想的転換」とは、どのようなことか、一五〇字程度で説明しなさい。

問六 著者は「日本の大都市」について、(4)「日本の大都市の多くはすでに『くるま社会』の限界に到達しつつあって、いま、ジェイコブスの転換をおこなわなければ、都市における社会的不安定性、文化的俗悪は、不可逆的な被害を私たちに与えることになることは間違いないであろう」と述べています。これについて、あなたの意見や感想を二〇〇字程度で自由に書きなさい。